

事業名：交通対策管理経費

企画課 企画係

| | | | | | | | | |
|---------|------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 01 自然・環境 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 人と自然の共生 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成16年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

野幌森林公園内基線道路一般車両通行者

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 江別市民 | | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 119,510 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

野幌森林公園内基線道路の入り口等に看板を設置し、交通量について測定する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 通行抑制看板設置数 | 枚 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 活動指標 2 | 交通量調査 | 回 | 1 | 1 | 1 | 1 |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

一般車両の通行を抑制することにより自然環境の保全が図られる。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 交通量（自動車） | 台 | 40 | 22 | 31 | 31 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 21 | 110 | 22 | 35 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 1,143 | 1,144 | 1,153 | 1,161 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 1,164 | 1,254 | 1,175 | 1,196 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|------------|--------------|--|
| 元年度 | 交通量調査（年1回） | 交通量調査経費 22千円 | |

事業開始背景

野幌森林公園の環境保全、公園散策者の安全確保の観点から、平成16年に基線の入口等に一般車両の通行量抑制のための看板を設置するとともに、毎年交通量調査を実施し効果を検証している。

事業を取り巻く環境変化

看板設置により、交通量は年々減少傾向にある。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

| | |
|---|--|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | |
| 成果動向及び原因分析 | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>上がっている</p> <hr style="border: 1px solid black;"/> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding: 0 10px;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 5px;"> <p>通行抑制看板を設置して以来、一般車両の通行量は減少しており、取組の成果は上がっている。</p> </div> </div> |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | |
| 成果向上余地 | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 小</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding: 0 10px;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 5px;"> <p>取組を継続することで、一般車両の通行量のさらなる減少を期待できる余地がある。</p> </div> </div> |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | |
| コスト | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>ある</p> <hr style="border: 1px solid black;"/> <p>なし</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding: 0 10px;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 5px;"> <p>必要最低限の費用で実施している。</p> </div> </div> |

事業名：都市景観創出事業

都市計画課 計画係

| | | | | | | | | |
|---------|-------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 05 都市基盤 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 市街地整備の推進 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 昭和62年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・市民

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----|----|---------|---------|---------|-------|
| 対象指標 1 | 市民 | 人 | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 0 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

- ・企画展の開催と景観パンフレットの発行により、景観に関する啓発・情報発信を行う。
- ・3年毎に都市景観賞を開催し、市民や企業などによる優れた景観創出・活動に対する表彰を行う。
- ・市内の景観資源の周知を目的として、3年毎に都市景観フォトコンテストを開催する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 企画展の開催日数 | 日 | 28 | 28 | 27 | 0 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・都市景観に対する意識の高揚と、江別らしい景観づくりへの理解と関心を高める。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|---------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 企画展参加者数 | 人 | 340 | 395 | 359 | 0 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 120 | 225 | 506 | 0 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 762 | 1,525 | 3,075 | 0 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 882 | 1,750 | 3,581 | 0 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|---|--|--|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市景観賞の開催 ・まちづくり彩々展の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市景観賞開催経費 374千円 ・まちづくり彩々展開催経費 86千円 | |

事業開始背景

都市景観の向上と快適な都市環境を創り出すため、景観に対する意識の高まりを図ろうとの目的で開始された普及啓発事業である。

事業を取り巻く環境変化

企画展の参加者数が近年減少傾向にあり、景観の普及啓発効果が薄くなってきていることから、令和2年度以降は、ホームページの充実など、インターネットを活用した景観の普及啓発に軸足を移し、企画展の開催は休止する。一方、都市景観賞は、前回（平成28年度）を超える応募件数となっており、インターネットの活用による効果が期待できることから、都市景観賞の前年に開催する都市景観フォトコンテストと合わせて、今後も3年毎の開催を継続する。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| | | | | | | |
|---|---|---|----------|---|----------------|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | | | | |
| 成果動向及び原因分析 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">企画展の参加者数は近年減少傾向にあり、会場まで足を運ぶ必要のある企画展による、景観の普及活動は効果が上がりにくい傾向にある。</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">上がっていない</td> </tr> </table> | 上がっている | 理由 根拠 | 企画展の参加者数は近年減少傾向にあり、会場まで足を運ぶ必要のある企画展による、景観の普及活動は効果が上がりにくい傾向にある。 | どちらかといえば上がっている | 上がっていない |
| 上がっている | 理由 根拠 | 企画展の参加者数は近年減少傾向にあり、会場まで足を運ぶ必要のある企画展による、景観の普及活動は効果が上がりにくい傾向にある。 | | | | |
| どちらかといえば上がっている | | | | | | |
| 上がっていない | | | | | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | | | | |
| 成果向上余地 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">令和2年度から企画展を休止することから、成果指標を企画展の参加者数から新たな成果指標に変更する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 小</td> </tr> </table> | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 令和2年度から企画展を休止することから、成果指標を企画展の参加者数から新たな成果指標に変更する必要がある。 | 成果向上余地 中 | 成果向上余地 小 |
| 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 令和2年度から企画展を休止することから、成果指標を企画展の参加者数から新たな成果指標に変更する必要がある。 | | | | |
| 成果向上余地 中 | | | | | | |
| 成果向上余地 小 | | | | | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | | | | | |
| コスト | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; background-color: black; color: white;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">令和2年度から企画展を休止し、今後、ホームページの充実など、インターネットを活用した景観の普及啓発に軸足を移すことにより、コストを削減するとともに、新たな成果指標を設定する。</td> </tr> <tr> <td>なし</td> </tr> </table> | ある | 理由 根拠 | 令和2年度から企画展を休止し、今後、ホームページの充実など、インターネットを活用した景観の普及啓発に軸足を移すことにより、コストを削減するとともに、新たな成果指標を設定する。 | なし | |
| ある | 理由 根拠 | 令和2年度から企画展を休止し、今後、ホームページの充実など、インターネットを活用した景観の普及啓発に軸足を移すことにより、コストを削減するとともに、新たな成果指標を設定する。 | | | | |
| なし | | | | | | |

事業名：定住促進事業

政策推進課参事(シティプロモート・住環境活性化)

| | | | | | | | | | |
|---------|-------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|-------|
| 政策 | 05 都市基盤 | | | 戦略 | | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 市街地整備の推進 | | | 具体的施策 | | | | | |
| 開始年度 | 令和元年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 新規 | 区分2 | 補助 | 補助金 | 奨励的補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民及び移住検討者

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-------|----|--------|--------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 日本総人口 | 千人 | 0 | 0 | 126,167 | 126,140 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段(事務事業の内容、手法)

- ・定住に関する相談窓口の対応を行う。
- ・地域イベントへの参加や自治会などのコミュニティとの交流を行う。
- ・地域の魅力について情報収集、発信を行う。
- ・移住を促すため、首都圏及び札幌市でPR活動を行う。また、北海道を中心とした道内市町村との広域連携事業である移住支援事業を実施する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 定住等PR活動回数 | 回 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| 活動指標 2 | まちづくり活動等の事業数 | 回 | 0 | 0 | 3 | 3 |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

市内での居住維持や子育て世代の移住が促進される。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 定住に関する相談対応件数 | 件 | 0 | 0 | 35 | 29 |
| 成果指標 2 | 移住支援金支給者数 | 人 | 0 | 0 | 0 | 3 |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費(A) | | 千円 | 0 | 0 | 2,775 | 5,461 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 0 | 0 | 7,687 | 7,741 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 0 | 0 | 10,462 | 13,202 |

| 事業内容(主なもの) | | 費用内訳(主なもの) | |
|------------|--|--------------------------------|-----------------|
| 元年度 | 地域おこし協力隊による定住促進活動 移住支援事業(広域連携事業)の実施 | 地域おこし協力隊報酬 北海道移住交流促進協議会の負担金 | 2,194千円 50千円 |

| |
|---|
| 事業開始背景 |
| <p>少子高齢化による人口減少が進む中、地域コミュニティの維持にとって市内居住者と市外からの移住・転入者の定住・定着が求められている。</p> |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度から大麻地区住環境活性化事業と北海道移住促進事業を統合し、定住に関する相談窓口を大麻地区から全市展開した。 ・令和元年には、15年ぶりに対前年同月比人口増となり、特に年少人口は、転入超過数多い市町村全国8位となる一方、市内居住者が除雪等の負担で住居の維持ができない、施設等に入所するなどの理由で市外転出が続いている。 ・若年層を中心とした地方から東京圏への転出超過が続く中、積極的な東京一極集中の是正が求められている。 |

| | | | | | | | |
|---|---|----------|----------|---|---|---|----------|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点） | | | | | | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | | | | | |
| 成果動向及び原因分析 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3" style="padding: 5px;">令和元年度から定住に関する相談窓口を大麻地区から全市展開したことにより、相談件数は増加したが、移住支援金については、問い合わせはあったが、支給要件が合わず対象とならなかった。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table> | 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | 令和元年度から定住に関する相談窓口を大麻地区から全市展開したことにより、相談件数は増加したが、移住支援金については、問い合わせはあったが、支給要件が合わず対象とならなかった。 | どちらかといえば上がっている | 上がっていない |
| 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | | | | 令和元年度から定住に関する相談窓口を大麻地区から全市展開したことにより、相談件数は増加したが、移住支援金については、問い合わせはあったが、支給要件が合わず対象とならなかった。 | |
| どちらかといえば上がっている | | | | | | | |
| 上がっていない | | | | | | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | | | | | |
| 成果向上余地 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3" style="padding: 5px;">地域おこし協力隊を活用し、市内外に江別市の良好な住環境をPRすることで、住み替えや移住の相談件数を増やす余地がある。東京圏からの移住支援金の支給については、引き続き北海道と連携していく中で成果向上を目指す。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table> | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | 地域おこし協力隊を活用し、市内外に江別市の良好な住環境をPRすることで、住み替えや移住の相談件数を増やす余地がある。東京圏からの移住支援金の支給については、引き続き北海道と連携していく中で成果向上を目指す。 | 成果向上余地 中 | 成果向上余地 小 |
| 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | | | | 地域おこし協力隊を活用し、市内外に江別市の良好な住環境をPRすることで、住み替えや移住の相談件数を増やす余地がある。東京圏からの移住支援金の支給については、引き続き北海道と連携していく中で成果向上を目指す。 | |
| 成果向上余地 中 | | | | | | | |
| 成果向上余地 小 | | | | | | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？ | | | | | | | |
| コスト | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2" style="padding: 5px;">現在の事業費は、地域おこし協力隊の報酬や事務費等の活動経費、北海道移住交流促進協議会の負担金、移住支援金であり、これ以上の削減は困難である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">なし</td> </tr> </table> | ある | 理由 根拠 | ▶ | 現在の事業費は、地域おこし協力隊の報酬や事務費等の活動経費、北海道移住交流促進協議会の負担金、移住支援金であり、これ以上の削減は困難である。 | なし | |
| ある | 理由 根拠 | ▶ | | | | 現在の事業費は、地域おこし協力隊の報酬や事務費等の活動経費、北海道移住交流促進協議会の負担金、移住支援金であり、これ以上の削減は困難である。 | |
| なし | | | | | | | |

事業名：生活バス路線運行補助事業

【事業番号 281】
政策推進課参事(公共交通)

| | | | | | | | |
|---------|------------|------|-------|-----|----|-----|-------------|
| 政策 | 05 都市基盤 | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 交通環境の充実 | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | — | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 補助金 事業補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

生活バス路線事業者

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標1 バス路線数(系統数) | 系統 | 29 | 28 | 27 | 28 |
| 対象指標2 | | | | | |

手段(事務事業の内容、手法)

「江別市生活バス路線運行費補助金交付要綱」に基づき、国や道の補助対象とならない市内完結バス路線を対象として、運行費の収支差に対する補助金を予算の範囲内で交付する。
 <実績額>
 ・江別2番通線：15,975千円
 ・野幌見晴台線：13,380千円

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 活動指標1 補助金額 | 千円 | 28,901 | 30,000 | 29,355 | 38,000 |
| 活動指標2 補助対象バス路線数 | 路線 | 3 | 3 | 2 | 2 |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- 生活バス路線の運行が維持される。
- 交通弱者の移動の利便性が確保される。

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|---------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標1 バス路線の廃止数(系統数) | 系統 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 成果指標2 | | | | | |

| 事業費の推移 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費(A) | 千円 | 28,901 | 30,000 | 29,355 | 38,000 |
| 正職員人件費(B) | 千円 | 2,285 | 2,288 | 2,306 | 2,322 |
| 総事業費(A+B) | 千円 | 31,186 | 32,288 | 31,661 | 40,322 |

| | 事業内容(主なもの) | 費用内訳(主なもの) |
|-----|------------------|----------------------|
| 元年度 | バス路線運行費に対し補助金を支出 | バス路線運行費への補助金29,355千円 |

事業開始背景

当初は国・道との協調補助のみだったが、平成13年度から市単独補助要綱を制定。

事業を取り巻く環境変化

- ・路線バス利用者数の減少傾向が継続している。
- ・利用者の減少に伴い、4系統（江別2番通線のうち2系統、江別線及び大麻団地線のうちそれぞれ1系統）が、平成27年3月末で廃止された。
- ・利用者の減少に伴い、1系統（当江線）が平成28年3月末で廃止された。
- ・江別市地域公共交通再編実施計画に基づき平成30年10月より、江別4番通線（2系統）、江別錦町線（3系統）が廃止され、野幌見晴台線（4系統）が新設された。
- ・利用者の減少に伴い、1系統（江別線（夕張鉄道））が令和元年9月末で廃止された。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
|--|----------------|------|
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| 補助金により、バス路線の維持確保に繋がっていると理解しているが、路線バスは利用者数の減少や運行事業者における乗務員の不足などにより、路線の維持は依然として難しい状況にある。 | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| バス路線を維持するためには、赤字対策の補助制度は重要である一方で、利用者数の減少が続いていることや、バス事業者においても乗務員の確保が難しくなってきているなど、路線の収支以外でも厳しい状況がある。 | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？ | | |
| コスト | ある | 理由根拠 |
| | なし | |
| 赤字バス路線に対する補助金の削減は、バス路線の廃止や減便に直結する恐れがある。 | | |

事業名：豊幌駅舎共同管理経費（補助金）

政策推進課参事（公共交通）

| | | | | | | | | |
|---------|------------|------|---|-------|----|-----|----|----------|
| 政策 | 05 都市基盤 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 交通環境の充実 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 昭和59年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 事業補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

豊幌地区の住民

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|---------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 | 豊幌地区の人口 | 人 | 2,631 | 2,639 | 2,632 | 2,632 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

「豊幌駅業務運営費補助要綱」に基づき、豊幌駅の管理運営を行う自治会に対し、当該管理運営経費の一部を予算の範囲内で補助する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 補助金額 | 千円 | 550 | 550 | 550 | 550 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

豊幌駅に管理人が配置されることにより、駅利用者の利便性、安全性が確保される。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 豊幌駅の利用に関する苦情件数 | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 550 | 550 | 550 | 550 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 762 | 763 | 769 | 774 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 1,312 | 1,313 | 1,319 | 1,324 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|----------------|-----------------|--|
| 元年度 | 駅業務運営に対し補助金を支出 | 駅業務運営への補助金550千円 | |

| |
|--|
| 事業開始背景 |
| 昭和59年の無人化に伴い、江別市が費用の一部を負担して管理人を置くこととなった。 |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市の補助金は平成13年度に510千円から550千円に増額している。 ・平成18年度にはプラットホームに屋根付きの待合所が数箇所設置され、利便性の向上が図られた。 |

| | | |
|---|----------------|----------|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点） | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| <p style="text-align: right;">駅舎の管理人を定期的に確保できており、それにより利用者が安心して利用できる状態になっている。</p> | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| <p style="text-align: right;">駅舎の管理については、JR北海道と自治会との間で締結している契約が主体であり、利用者が安心して利用できるよう現在の状況を維持する。</p> | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |
| <p style="text-align: right;">補助金の減額は、管理人の継続確保等に支障を来す可能性が高い。</p> | | |

事業名：公共交通利用促進対策事業

政策推進課参事(公共交通)

| | | | | | | | | |
|---------|------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 05 都市基盤 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 交通環境の充実 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成25年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 補助 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 市民 | 人 | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 119,510 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段(事務事業の内容、手法)

- 平成30年度に策定した地域公共交通網形成計画に基づき、路線バスの利用促進、江北地区のデマンド型交通の実証運行、豊幌地区における新たな交通手段の導入に向けたアンケート調査等を実施する。
- 江別市地域公共交通活性化協議会(市、公共交通事業者、公共交通利用者、学識経験者等で構成)において、地域公共交通網形成計画の推進状況の確認・評価等を行うほか、市内のバス路線についても引き続き検討し、必要に応じて地域公共交通再編実施計画の変更等を行う。
- 市民に対して、市ホームページ・広報誌による情報発信を引き続き行う。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 利便性向上や利用促進等のために行った事業数 | 件 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

交通機能を維持・確保することに加え、情報提供の強化等を図ることにより、利用が促進される。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | バス輸送人員 | 千人 | 602 | 548 | 518 | 562 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費(A) | | 千円 | 10,932 | 9,624 | 2,839 | 4,201 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 11,427 | 11,441 | 11,531 | 11,612 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 22,359 | 21,065 | 14,370 | 15,813 |

| 事業内容(主なもの) | | 費用内訳(主なもの) | |
|------------|--|--|---|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> 調査分析・計画推進等業務 地域公共交通活性化協議会等開催 バス路線マップ等作成 市ホームページや広報誌による周知・利用啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 江北地区デマンド型交通補助金 豊幌地区アンケート調査(実施) 地域公共交通活性化協議会等開催 バス路線マップ等の作成、広報折込 | <p>756千円</p> <p>440千円</p> <p>259千円</p> <p>1,302千円</p> |

事業開始背景

バスの利用減少が進み、公共交通の課題解決に向けた検討が必要な状況にある。

事業を取り巻く環境変化

・野幌駅の高架化及び周辺整備に伴い、駅を中心とした交通機能の向上や利便性向上に向けて、新たなバス路線の運行など具体的な取組をする必要がある。
 ・道路運送法に基づき、市、事業者、学識経験者等を構成員として設置していた地域公共交通会議を拡充して、平成28年度に、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく地域公共交通活性化協議会を立ち上げた。当該協議会において、持続可能な公共交通の実現のため、市内全体のバス路線再編に向けた協議を行い、平成30年度に江別市地域公共交通網形成計画及び江別市地域公共交通再編実施計画を策定し路線再編を行った。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | |
|---|----------------|----------|--|
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 | 自家用車の普及に伴うバス利用者の減少、路線収支の悪化や事業者における乗務員不足等により路線バスの減便などが続いている。 |
| | どちらかといえば上がっている | | |
| | 上がっていない | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 地域公共交通活性化協議会において、利便性向上や利用促進等も検討し、計画策定及び実施することにより、成果が向上する余地はある。 |
| | 成果向上余地 中 | | |
| | 成果向上余地 小 | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 | 事業者との連携や国などの補助等により、コスト削減の余地はある。 |
| | なし | | |

事業名：大学連携調査研究助成事業

企画課 企画係

| | | | | | | | | | |
|---------|----------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|-------|
| 政策 | 08 協働 | | | 戦略 | | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 協働のまちづくりの推進 | | | 具体的施策 | | | | | |
| 開始年度 | 平成21年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 | 政策的補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）の教員及び教員を中心とした団体。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 | 市内4大学所属教員数（短大含む） | 人 | 474 | 477 | 475 | 475 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

第6次江別市総合計画の「えべつ未来戦略」に関わる事業等で、市内4大学に所属する教員が行う江別市の課題解決や地域活性化に貢献する調査研究事業に対し、大学連携調査研究事業補助金を交付する。
 【根拠要綱】江別市大学連携調査研究事業補助金交付要綱
 【補助率及び上限額】補助対象経費の全額又は一部について、1,000千円を上限に補助

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 補助事業件数 | 件 | 5 | 5 | 4 | 4 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市内4大学の教員及び教員を中心とした団体に対して補助金を交付し、地域の課題解決につながる具体性・実用性の高い調査研究を実施できるようにする。また、大学の優れた研究等を地域の課題解決に生かすため、教員等の関心を高める。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 補助事業申請件数 | 件 | 8 | 9 | 6 | 6 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費(A) | | 千円 | 2,893 | 2,640 | 1,781 | 2,085 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 3,047 | 3,051 | 3,075 | 3,096 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 5,940 | 5,691 | 4,856 | 5,181 |

| | 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|-----|---|--|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> 市内4大学の教員が行う江別市の地域課題や地域活性化に貢献する調査研究事業に対し補助金を交付する。 前年度の補助事業について、報告会を開催する。 【採択事業】 <ul style="list-style-type: none"> 小学校を使用した冬期避難所設営の課題に関する研究 小学校のプログラミング教育導入にむけたプログラミング的思考の地域理解 など | 江別市大学連携調査研究事業補助金 1,773千円 大学連携事業報告会会場使用料 8千円 |

| |
|--|
| 事業開始背景 |
| H21.2 「江別市・大学・江別商工会議所による包括連携・協力に関する協定書」締結 H21.7 大学連携調査研究事業補助金創設 |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| H23.4 酪農学園大学短期大学部学生募集停止 |

| | | |
|---|----------------|----------|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点） | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| 研究結果については最新の知見を生かした防災訓練の実施、小学校のプログラミング教育導入に向けた研究等、広い分野でまちづくりに生かされている。 | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| 研究結果を広く周知することで、成果活用の幅が広がる余地がある。 | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |
| 補助費が経費の大部分を占めており、事業費の削減による効率化は困難である。その一方で補助金の要綱を改正するなど、手続きの簡素化を図ってきている。 | | |

事業名：大学連携学生地域活動支援事業

企画課 企画係

| | | | | | | | | |
|---------|----------------|------|---|-------|----|-----|----|-----------|
| 政策 | 08 協働 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 協働のまちづくりの推進 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成22年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 政策的補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）に所属する学生団体

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 対象指標 1 | 市内4大学に在学する学生数（短期大学部含む） | 人 | 9,722 | 9,865 | 10,096 | 10,096 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

市内4大学に所属する学生団体が行う、自主的な取組による地域住民とのふれあいやまちづくりに関する事業（環境活動、地域福祉、教育及び文化、観光及び産業、その他まちづくりに関する事業）に対し、補助金を交付する。

【根拠要綱】江別市大学連携学生地域活動支援事業補助金交付要綱
 【補助率及び上限額】補助対象経費の全額又は一部について、100千円を上限に補助

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 補助事案件数 | 件 | 4 | 6 | 6 | 6 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市内4大学に在学する学生が、江別市民の一員としての意識を持つことが、地域と大学による協働のまちづくりにつながることから、市の補助により、学生が自主的に、地域住民とのふれあいやまちづくりに関する取組を実施できるようにする。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 補助事業申請件数 | 件 | 8 | 6 | 6 | 6 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 297 | 412 | 176 | 425 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 3,047 | 3,814 | 3,844 | 3,871 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 3,344 | 4,226 | 4,020 | 4,296 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|---|-------------------|-------|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> 市内4大学に所属する学生が行う、自主的な取組みによる地域住民とのふれあいやまちづくりに関する事業に対し、補助金を交付する。 【採択事業】 市民利用の視点からのバリアフリー整備の現状研究 安心して遊べる公園マップ作り など | 大学連携学生地域活動支援事業補助金 | 176千円 |

| |
|--|
| 事業開始背景 |
| H21.2 「江別市・大学・江別商工会議所による包括連携・協力に関する協定書」締結 H21 大学連携調査研究事業補助金創設 H22 大学連携学生地域活動支援事業補助金創設 H26 えべつ未来づくり学生コンペティション実行委員会立ち上げ |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| H23.4 酪農学園大学短期大学部 学生募集停止 |

| | | |
|--|----------------|----------|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点） | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| 毎年一定数の応募があることから、市内4大学の学生が地域へ関心を寄せているといえ、計画通りに成果は上がっている。 | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| 当事業は平成22年度から実施しており、過去の実績や学生への周知などにより事業が理解されてきている。今後、更なる申請件数の増加により、事業の質の向上につながる可能性があることから、成果向上の余地はある。 | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |
| 補助金を交付する事業であり、採択事業決定までの手続きの簡素化など、事務の見直しを行ってきていることから、コスト（所要時間）の削減は困難である。 | | |

事業名：大学版出前講座支援事業

企画課 企画係

| | | | |
|---------|----------------|-------|------------|
| 政策 | 08 協働 | 戦略 | |
| 取組の基本方針 | 01 協働のまちづくりの推進 | 具体的施策 | |
| 開始年度 | 平成26年度 | 終了年度 | — |
| | 区分1 | 継続 | 区分2 単独 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民・市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 出前講座講師登録者数 | 人 | 61 | 61 | 49 | 49 |
| 対象指標 2 | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

市内4大学の研究機能を発揮し、協働のまちづくりを推進するため、地域活性化・地域課題解決の研究成果や大学の特色を生かしたテーマにおいて、講師が地域に出向いて実施する出前講座を支援する。

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 出前講座実施件数 | 件 | 5 | 4 | 1 | 1 |
| 活動指標 2 | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

講座開催を通じて、各大学は、日頃の研究や取組みについて市民に知ってもらう機会を得るとともに、参加した市民は様々な知識に触れる機会を得る。また、このことを通して大学と市民の相互理解が促され、協働のまちづくりの実現につながる。

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 出前講座参加者数 | 人 | 289 | 232 | 20 | 20 |
| 成果指標 2 | | | | | |

| 事業費の推移 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | 千円 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 正職員人件費 (B) | 千円 | 3,047 | 2,288 | 2,306 | 2,322 |
| 総事業費 (A+B) | 千円 | 3,047 | 2,288 | 2,306 | 2,347 |

| | 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|-----|---|------------|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> 出前講座受付及び大学との調整 事業の周知、PR（パンフレットの作成配布、ホームページ、広報等） 講座資料の印刷 | |

事業開始背景

市内に4つの大学が立地し、文教都市としての側面がある本市では、大学と連携した取り組みを推進しており、各大学の特色を活かした研究について市民に知ってもらう機会を提供するため事業を開始した。

事業を取り巻く環境変化

各大学が特色のある研究や取組を行っているなか、その研究結果等を出前講座をととして市民に知ってもらうことで、江別について考え、まちを見つめ直す機会を創出する取り組みを進めている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| | | | | | | |
|---|--|--|----------|--|----------------|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | | | | |
| 成果動向及び原因分析 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">令和元年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、開催予定の講座が中止となるなど大きな影響を受けたが、事業開始以降、一定数の参加者を維持している。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table> | 上がっている | 理由 根拠 | 令和元年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、開催予定の講座が中止となるなど大きな影響を受けたが、事業開始以降、一定数の参加者を維持している。 | どちらかといえば上がっている | 上がっていない |
| 上がっている | 理由 根拠 | 令和元年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、開催予定の講座が中止となるなど大きな影響を受けたが、事業開始以降、一定数の参加者を維持している。 | | | | |
| どちらかといえば上がっている | | | | | | |
| 上がっていない | | | | | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | | | | |
| 成果向上余地 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">新型コロナウイルス感染症が収束することにより、講座開催数は再び増加する可能性がある。ただし、当事業の講師は大学教員であることから日程などが制約されるため、一定数以上の開催は難しい面もある。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table> | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 新型コロナウイルス感染症が収束することにより、講座開催数は再び増加する可能性がある。ただし、当事業の講師は大学教員であることから日程などが制約されるため、一定数以上の開催は難しい面もある。 | 成果向上余地 中 | 成果向上余地 小 |
| 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 新型コロナウイルス感染症が収束することにより、講座開催数は再び増加する可能性がある。ただし、当事業の講師は大学教員であることから日程などが制約されるため、一定数以上の開催は難しい面もある。 | | | | |
| 成果向上余地 中 | | | | | | |
| 成果向上余地 小 | | | | | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | | | | | |
| コスト | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">パンフレットや講座資料の印刷経費等、必要最低限の経費で実施しており、削減は困難である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">なし</td> </tr> </table> | ある | 理由 根拠 | パンフレットや講座資料の印刷経費等、必要最低限の経費で実施しており、削減は困難である。 | なし | |
| ある | 理由 根拠 | パンフレットや講座資料の印刷経費等、必要最低限の経費で実施しており、削減は困難である。 | | | | |
| なし | | | | | | |

事業名： 学生地域定着自治体連携事業

企画課 企画係

| | | | | | | | | | |
|---------|----------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|-------|
| 政策 | 08 協働 | | | 戦略 | | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 協働のまちづくりの推進 | | | 具体的施策 | | | | | |
| 開始年度 | 平成27年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 補助 | 補助金 | 政策的補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）に所属する学生

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----------------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 対象指標 1 | 市内大学に在学する学生数（短期大学部含む） | 人 | 9,722 | 9,865 | 10,096 | 10,096 |
| 対象指標 2 | 協議会加入自治体数 | 団体 | 8 | 8 | 8 | 8 |

手段（事務事業の内容、手法）

連携する自治体（江別市、芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町）の各地域へ市内4大学の学生を就業・定住させるため、学生地域定着推進広域連携協議会を運営し、市内で実施する地域活動プログラム（インターンシップ、ワークショップ、地域イベント参画など）へ学生が参加するための支援を行う。支援の手段は、地域活動プログラムと学生のマッチングや、交通費等の支給を行う。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|---------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 地域活動等実施プログラム数 | 件 | 44 | 39 | 41 | 41 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市内4大学の学生が地域の魅力を知り、将来的に市内で就業・定住することを目的に、地域活動プログラムに参加する学生の増加を図る。また、協議会の運営を通じて、連携する各自自治体への就業・定住についても実現を図る。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 市内の地域活動等に参加した延べ学生数 | 人 | 569 | 445 | 463 | 463 |
| 成果指標 2 | 参加者のうち市内へ就業した者の人数 | 人 | 0 | 4 | 3 | 3 |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 3,403 | 3,299 | 3,244 | 3,554 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 7,618 | 7,627 | 7,687 | 7,741 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 11,021 | 10,926 | 10,931 | 11,295 |

| | 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|-----|--|--|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> 学生地域定着推進広域連携協議会の運営 学生地域活動プログラムへの参加支援（企業インターンシップ、商店街イベント、スノーフェスティバルボランティアなど） | <ul style="list-style-type: none"> 学生地域定着推進広域連携協議会負担金 3,239千円 一般使用料賃借料 5千円 |

事業開始背景

若い世代の首都圏や札幌など、大都市圏への流出が課題となっている中、本市においても大学卒業後に市内企業等への就職者が少なく、市外への流出が顕著である。
このため、4大学1短大があり約1万人の学生が在学している地域特性を生かして、道内自治体や市内関係団体と連携して、「学生地域定着推進広域連携協議会」を平成27年12月に設立し、学生の就職や定住等、地域への定着を目的として、学生の地域活動等と受入先とのマッチング、活動支援を行うこととした。

事業を取り巻く環境変化

平成27年度の学生地域定着推進広域連携協議会の設立、試行プログラムの実施を経て、平成28年度から本格実施。事業展開に伴い、関係団体や企業等の本事業に対する理解が深まりつつある。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| | | |
|--|----------------|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| <p>当事業は平成27年度に開始、平成28年度から本格実施している。江別市内では、各種イベントボランティア、インターンシップなどの地域活動プログラムに多くの学生が参加し、市内企業へ就職する例も出ており、一定の成果が出ている。</p> | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| <p>事業継続によりノウハウが蓄積され、事業の認識が高まるにつれて、学生と地域活動プログラムのマッチング精度が向上することから、成果向上の余地もある。</p> | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |
| <p>事業費は協議会の負担金のため削減は困難であるが、事業の継続により情報が蓄積し、地域活動の質の向上やマッチングの効率化で事務量が軽減され、運営に係るコスト（所要時間）を削減できる可能性がある。</p> | | |

事業名：男女の出会いの場づくり支援事業 企画課 企画係

| | | | | | | | | |
|---------|----------------|-------|-------|-----|----|-----|----|-----|
| 政策 | 08 協働 | 戦略 | | | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 協働のまちづくりの推進 | 具体的施策 | | | | | | |
| 開始年度 | 平成27年度 | 終了年度 | 令和元年度 | 区分1 | 廃止 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の未婚者（25～44歳）

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 | 未婚者数（25～44歳）（国勢調査結果） | 人 | 9,335 | 9,335 | 9,335 | 0 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

市内関係機関等との連携協力により、独身の男女の出会い、交流の場を提供するイベントを開催する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | イベントの実施回数 | 回 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

独身の男女の出会いの場づくりを支援する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | イベントへの参加人数 | 人 | 54 | 40 | 40 | 0 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 786 | 465 | 399 | 0 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 2,285 | 1,144 | 1,153 | 0 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 3,071 | 1,609 | 1,552 | 0 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|------------------------|------------|-------|
| 元年度 | 独身男女の出会いを支援する交流イベントを開催 | イベント開催委託料 | 399千円 |

事業開始背景

少子高齢化が加速する中、晩婚化・晩産化の解消に向け、行政としても若い世代へ出会いの機会を提供するとともに江別市をPRし交流人口を増加させることを目指し事業を開始した。

事業を取り巻く環境変化

総合戦略の5年間で事業期間として実施した事業であり、民間でも類似イベントが開催される等、一定の役割を果たしたため、事業を終了する。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

| | | | | |
|------------|----------------|----------|---|---------------------------|
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | 多数の参加者があり、一定の成果があると考えられる。 |
| | どちらかといえば上がっている | | | |
| | 上がっていない | | | |

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

| | | | | |
|--------|----------|----------|---|--|
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | 5年間の実施により事業目的は一定程度達成しており、民間においても類似のイベントが実施されるようになったため。 |
| | 成果向上余地 中 | | | |
| | 成果向上余地 小 | | | |

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

| | | | | |
|-----|----|----------|---|---------------|
| コスト | ある | 理由 根拠 | ▶ | 必要最小限のコストで実施。 |
| | なし | | | |

事業名：国際交流情報提供事業

秘書課 秘書係

| | | | |
|---------|------------|-------|------------|
| 政策 | 08 協働 | 戦略 | |
| 取組の基本方針 | 02 国際交流の推進 | 具体的施策 | |
| 開始年度 | 平成10年度 | 終了年度 | — |
| | 区分1 | 継続 | 区分2 単独 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民
- ・市内通勤、通学者

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 市民 | 人 | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 119,510 |
| 対象指標 2 | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

日本語に堪能で地域の国際化事業に理解と意欲のある外国人を市国際交流員（CIR）として継続的に雇用し以下の事業を実施する。

1. 文書、刊行物等の翻訳、監修
2. 国際交流事業の企画、立案、実施協力
3. 地域住民・市職員に対する語学指導への協力
4. 地域住民の異文化理解交流活動への協力
5. 海外との連絡・調整、通訳、訪問客の接遇
6. 在住外国人へのサポート

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|---------------------------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 国際交流員が係った地域国際化のための講座・イベント等開催回数 | 回 | 106 | 148 | 128 | 140 |
| 活動指標 2 海外と江別市とで交わした行政文書等の数 | 通 | 1,056 | 632 | 717 | 600 |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

1. 地域住民等に国際感覚や国際意識を持ってもらう
2. 地域住民等に異文化に対する理解を深めてもらう
3. 在住外国人にも住みやすい街にする

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 国際交流員が係った地域国際化のための講座・イベント等の参加者数 | 人 | 1,876 | 1,233 | 1,138 | 1,250 |
| 成果指標 2 | | | | | |

| 事業費の推移 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | 千円 | 5,636 | 5,628 | 5,642 | 5,676 |
| 正職員人件費 (B) | 千円 | 1,143 | 1,144 | 1,153 | 1,161 |
| 総事業費 (A+B) | 千円 | 6,779 | 6,772 | 6,795 | 6,837 |

| | 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|-----|--|--|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種講演（出前講座、語学教室） ・刊行物等の翻訳 ・市ホームページの作成、更新 ・姉妹都市グレシャム市との連絡調整、文書作成等 ・在住外国人への情報提供 ほか | <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流員報酬 5,400千円 ・国際交流員費用弁償 242千円 |

| |
|---|
| 事業開始背景 |
| 地域住民の国際理解や在住外国人にとって住みやすいまちづくりを推進するため、日本語に堪能で地域の国際化に理解と意欲のある外国人を国際交流員として雇用することとした。 |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| 社会のグローバル化の中で、市民や将来を担う子ども達にとって国際理解を深めコミュニケーションスキルの向上を図る必要があるとともに、諸外国の情報を得ることはますます重要となっている。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|----------|---|----------------|----------|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点） | | | | | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | | | | |
| 成果動向及び原因分析 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>外国人向けの情報発信の充実を図っているほか、中高生の相互交流事業では、姉妹都市との連絡・調整などきめ細かく対応している。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table> | 上がっている | 理由 根拠 | <p>外国人向けの情報発信の充実を図っているほか、中高生の相互交流事業では、姉妹都市との連絡・調整などきめ細かく対応している。</p> | どちらかといえば上がっている | 上がっていない |
| 上がっている | 理由 根拠 | <p>外国人向けの情報発信の充実を図っているほか、中高生の相互交流事業では、姉妹都市との連絡・調整などきめ細かく対応している。</p> | | | | |
| どちらかといえば上がっている | | | | | | |
| 上がっていない | | | | | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | | | | |
| 成果向上余地 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>現在の国際交流員の活動は、地域社会に受け入れられ、多文化への理解など一定の成果を出している。引き続き、地域住民が国際交流員と接する機会を増やすことで、外国人と積極的にコミュニケーションを図る意識や関心を高めることで、さらなる成果の向上が期待できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table> | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | <p>現在の国際交流員の活動は、地域社会に受け入れられ、多文化への理解など一定の成果を出している。引き続き、地域住民が国際交流員と接する機会を増やすことで、外国人と積極的にコミュニケーションを図る意識や関心を高めることで、さらなる成果の向上が期待できる。</p> | 成果向上余地 中 | 成果向上余地 小 |
| 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | <p>現在の国際交流員の活動は、地域社会に受け入れられ、多文化への理解など一定の成果を出している。引き続き、地域住民が国際交流員と接する機会を増やすことで、外国人と積極的にコミュニケーションを図る意識や関心を高めることで、さらなる成果の向上が期待できる。</p> | | | | |
| 成果向上余地 中 | | | | | | |
| 成果向上余地 小 | | | | | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？ | | | | | | |
| コスト | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>国際交流員の報酬については、業務内容に即したもので、かつ一定レベルの生活保障が不可欠であるため、その他の経費については、実費弁償とするなど必要最小限の支出とすることで、可能な限りコスト削減を図っている。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">なし</td> </tr> </table> | ある | 理由 根拠 | <p>国際交流員の報酬については、業務内容に即したもので、かつ一定レベルの生活保障が不可欠であるため、その他の経費については、実費弁償とするなど必要最小限の支出とすることで、可能な限りコスト削減を図っている。</p> | なし | |
| ある | 理由 根拠 | <p>国際交流員の報酬については、業務内容に即したもので、かつ一定レベルの生活保障が不可欠であるため、その他の経費については、実費弁償とするなど必要最小限の支出とすることで、可能な限りコスト削減を図っている。</p> | | | | |
| なし | | | | | | |

事業名：江別国際センター施設管理費等補助金 秘書課 秘書係

| | | | |
|---------|------------|-------|--------|
| 政策 | 08 協働 | 戦略 | |
| 取組の基本方針 | 02 国際交流の推進 | 具体的施策 | |
| 開始年度 | 平成 8年度 | 終了年度 | — |
| | 区分1 | 継続 | 区分2 |
| | 単独 | 補助金 | 団体運営補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市国際交流推進協議会

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|---------------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 江別市国際交流推進協議会の構成団体数 | 団体 | 21 | 24 | 25 | 0 |
| 対象指標 2 | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

市内の各国際交流団体等で構成された組織である「江別市国際交流推進協議会」に対し、同協議会が管理・運営している「江別国際センター」の施設管理費の一部を補助する。
 補助金内訳：テナント賃借料、光熱水費、スタッフ人件費の一部
 （江別国際センター補助金交付要綱）

※令和元年12月に「市民交流施設ぷらっと」へ移転したことから、令和2年度から「市民交流施設関連経費（江別国際センター施設管理費補助金）」事業へ統合

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 補助金額 | 千円 | 3,352 | 3,196 | 4,134 | 0 |
| 活動指標 2 | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

国際交流施設が安定的に運営され、国際交流事業が積極的に推進される。

※令和元年12月に「市民交流施設ぷらっと」へ移転したことから実績は移転前までの値
 ※令和2年度から「市民交流施設関連経費（江別国際センター施設管理費補助金）」事業へ統合

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 利用者数 | 人 | 11,224 | 11,429 | 7,848 | 0 |
| 成果指標 2 | | | | | |

| 事業費の推移 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | 千円 | 3,352 | 3,196 | 4,134 | 0 |
| 正職員人件費 (B) | 千円 | 1,219 | 1,144 | 1,153 | 0 |
| 総事業費 (A+B) | 千円 | 4,571 | 4,340 | 5,287 | 0 |

| 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|--|---|
| 元年度 以下の事業を実施する江別市国際交流推進協議会に対し、活動拠点となる江別国際センターの施設管理のための補助金を支出する。 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人との交流イベントの実施 ・会報、ホームページ等での広報 ・外国人へのホームステイや通訳などのサポート支援 ・主に外国人技能実習生を対象とした日本語教室開講 | 江別国際センター施設管理等に対する補助金 4,134千円 ※「市民交流施設ぷらっと」への移転関連経費を含む |

事業開始背景

平成8年に市内の国際交流活動の拠点として開設された江別国際センターは、市内の大学や国際交流団体が構成された江別市国際交流推進協議会が管理、運営を行っており、その活動は地域の国際化・国際交流の推進において大きな役割を担っている。

事業を取り巻く環境変化

平成24年7月の商業施設内への仮移転後も、語学教室やイベントの積極的な開催などにより利用者が増加し、さらに令和元年12月には野幌駅南口の「市民交流施設ぶらっと」に移転したことから、より利便性の向上が図られたところである。従来からの事業に加え、施設内の市民活動センターと連携した事業を模索するなど、さらなる新規利用者の増加に向けた取組みも進められている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
|---|-----------------------|----------|
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| <p>協議会が管理・運営する国際センターは、市民や国際交流団体が事業や交流活動を行なう拠点となっているとともに、多様な事業を通じ、市民の国際交流や国際理解の推進、市内在住の外国人へのサポート等が図られている。また、日本語教室の開講や新たなイベントを実施するなど、加盟団体以外の一般利用者も増加傾向にあり、近年の成果指標の推移は安定傾向にある。</p> | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| <p>円滑な施設管理と運営により、国際交流推進協議会及びその構成団体の安定的な活動の場が確保できており、現状は適当である。</p> | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |
| <p>光熱水費等については、固定的な費用であり、大幅な削減は難しいが、センターの利便性を活かした新たな事業を実施するなどして、安定的な自主財源を確保する。</p> | | |

事業名：江別市都市提携委員会補助金

秘書課 秘書係

| | | | |
|---------|------------|-------|--------|
| 政策 | 08 協働 | 戦略 | |
| 取組の基本方針 | 02 国際交流の推進 | 具体的施策 | |
| 開始年度 | 昭和52年度 | 終了年度 | — |
| | 区分1 | 継続 | 区分2 |
| | 単独 | 補助金 | 団体運営補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市都市提携委員会

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|----------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 江別市都市提携委員会委員数 | 人 | 44 | 44 | 44 | 44 |
| 対象指標 2 | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

姉妹・友好都市交流を行う江別市都市提携委員会に対し、その事業費を補助する。
 補助金内訳：学生派遣経費、交換学生等受入経費ほか
 （江別市都市提携委員会補助金交付要綱）

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 補助金額 | 千円 | 500 | 450 | 450 | 450 |
| 活動指標 2 | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

江別市都市提携委員会への補助により、以下の成果が期待できる。
 1. 異文化を理解し、広い視野をもった市民を増やす 2. 市民ボランティアとして活躍出来る人を増やす
 3. 姉妹・友好都市との交流を通じて自分のまちの歴史や状況を客観的に理解し、郷土を愛する心を育むとともに、国際感覚を身につけ国際社会に貢献できることを目指す

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|----------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 姉妹都市・友好都市派遣人数 | 人 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 成果指標 2 姉妹都市・友好都市受入人数 | 人 | 3 | 3 | 3 | 3 |

| 事業費の推移 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | 千円 | 500 | 450 | 450 | 450 |
| 正職員人件費 (B) | 千円 | 381 | 381 | 384 | 387 |
| 総事業費 (A+B) | 千円 | 881 | 831 | 834 | 837 |

| | 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|-----|---|---------------------------------|
| 元年度 | 以下の事業を実施する江別市都市提携委員会に対し補助金を支出する。 ・姉妹都市グレシャム市との高校生相互派遣 ・姉妹都市、友好都市を訪問する団体への助成 ・姉妹都市、友好都市に関する市民PR ・国際交流イベントへの参加及び展示物等出展協力 ・友好都市高知県土佐市からの訪問団との交流 | 江別市都市提携委員会の事業実施に対する補助金 450千円 |

事業開始背景

江別市都市提携委員会は、姉妹都市グレシャム市、友好都市土佐市との間で、教育・文化・産業・経済等の交流を図る諸事業を積極的に推進し、相互の友好親善において中心的役割を担うため、昭和53年に設立された。

事業を取り巻く環境変化

姉妹都市や友好都市との交流の懸け橋として、市内各種団体で構成する都市提携委員会に求められる役割は重要となっている。また、例年、グレシャム市派遣を希望する生徒も増加傾向にあり、市民の国際交流への関心の高まりが伺える。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| | | |
|---|----------------|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |

相互交流事業に参加した中高生は、異文化を体験したことで、自己成長や国際交流への意識向上、将来の進路を見つめ直すきっかけとなるなど、生徒本人だけでなく、学校や家庭など周囲にも良い影響を与える事業となっている。

姉妹都市、友好都市への訪問で得た経験を、様々な機会を通じて発信することによって、さらなる関心の高まりが期待できる。

姉妹都市や友好都市との親善交流の懸け橋として、グレシャム市への高校生相互交流事業などの実施には、必要最小限のコストで取り組んでいる。これ以上の削減は、事業の縮小につながり、成果の低下が懸念される。

事業名：市民交流施設関連経費(江別国際センター施設管理費補助金)

秘書課 秘書係

| | | | | | | | | | |
|---------|------------|-------|---|-----|----|-----|----|-----|--------|
| 政策 | 08 協働 | 戦略 | | | | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 国際交流の推進 | 具体的施策 | | | | | | | |
| 開始年度 | 令和元年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 新規 | 区分2 | 単独 | 補助金 | 団体運営補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

江別市国際交流推進協議会

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 | 江別市国際交流推進協議会の構成団体数 | 団体 | 0 | 0 | 25 | 25 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段(事務事業の内容、手法)

市内の各国際交流団体等で構成された組織である「江別市国際交流推進協議会」に対し、同協議会が管理・運営している「江別国際センター」の施設管理費の一部を補助する。
 補助金内訳：「市民交流施設ぶらっと」への移転後の施設管理費等の一部
 (江別国際センター補助金交付要綱)

※令和元年12月に「市民交流施設ぶらっと」へ移転
 ※令和2年度から、これまでの「江別国際センター施設管理費等補助金」事業を統合

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 補助金額 | 千円 | 0 | 0 | 106 | 2,163 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

国際交流施設が安定的に運営され、国際交流事業が積極的に推進される。

※令和元年12月に「市民交流施設ぶらっと」へ移転したことから実績は移転後の値
 ※令和2年度から、これまでの「江別国際センター施設管理費等補助金」事業を統合

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------|----|--------|--------|-------|--------|
| 成果指標 1 | 利用者数 | 人 | 0 | 0 | 2,060 | 11,500 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費(A) | | 千円 | 0 | 0 | 106 | 2,163 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 0 | 0 | 384 | 1,161 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 0 | 0 | 490 | 3,324 |

| 事業内容(主なもの) | | 費用内訳(主なもの) | |
|------------|---|--|--|
| 元年度 | 以下の事業を実施する江別市国際交流推進協議会に対し、活動拠点となる江別国際センターの施設管理のための補助金を支出する。 ・外国人との交流イベントの実施 ・会報、ホームページ等での広報 ・外国人へのホームステイや通訳などのサポート支援 ・主に外国人技能実習生を対象とした日本語教室開講 | 江別国際センター施設管理等に対する補助金 106千円 ※令和元年12月の「市民交流施設ぶらっと」移転後に係る経費 | |

| |
|--|
| 事業開始背景 |
| 平成8年に市内の国際交流活動の拠点として開設された江別国際センターは、市内の大学や国際交流団体で構成された江別市国際交流推進協議会が管理、運営を行っており、その活動は地域の国際化・国際交流の推進において大きな役割を担っている。 |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| 平成24年7月の商業施設内への仮移転後も、語学教室やイベントの積極的な開催などにより利用者が増加し、さらに令和元年12月には野幌駅南口の「市民交流施設ぶらっと」に移転したことから、より利便性の向上が図られたところである。従来からの事業に加え、施設内の市民活動センターと連携した事業を模索するなど、さらなる新規利用者の増加に向けた取組みも進められている。 |

| | | | |
|---|----------------|------|---|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点） | | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由根拠 | <p>協議会が管理・運営する国際センターは、市民や国際交流団体が事業や交流活動を行なう拠点となっているとともに、多様な事業を通じ、市民の国際交流や国際理解の推進、市内在住の外国人へのサポート等が図られている。また、日本語教室の開講や新たなイベントを実施するなど、加盟団体ではない一般の利用者も増加傾向にあり、近年の成果指標の推移は安定傾向にある。</p> |
| | どちらかといえば上がっている | | |
| | 上がっていない | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由根拠 | <p>円滑な施設管理と運営により、国際交流推進協議会及びその構成団体の安定的な活動の場が確保できており、現状は適当である。</p> |
| | 成果向上余地 中 | | |
| | 成果向上余地 小 | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？ | | | |
| コスト | ある | 理由根拠 | <p>光熱水費等については、固定的な費用であり、大幅な削減は難しいが、センターの利便性を活かした新たな事業を実施するなどして、安定的な自主財源を確保する。</p> |
| | なし | | |

事業名：行政改革推進事業

【事業番号 541】
政策推進課 主査(政策推進)

| | | | | | | | | |
|---------|------------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 09 計画推進 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 自主・自立の市政運営の推進 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成13年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市職員

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 | 市職員数 | 人 | 1,162 | 1,139 | 1,140 | 1,140 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段(事務事業の内容、手法)

- ・行政改革大綱に基づく行政改革推進計画を実施する。
- ・行政改革推進委員会を開催し、行政改革に関する意見や助言を求める。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|---------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 行政改革推進委員会開催回数 | 回 | 1 | 4 | 1 | 4 |
| 活動指標 2 | 行革関連事業等開催回数 | 回 | 4 | 20 | 11 | 8 |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・市職員が高い意識を持って、行政改革に取り組んでいる。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 行政改革取組項目数 | 件 | 26 | 26 | 23 | 23 |
| 成果指標 2 | 行革関連事業参加者数 | 人 | 74 | 271 | 117 | 100 |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費(A) | | 千円 | 47 | 230 | 54 | 268 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 3,428 | 4,576 | 3,844 | 3,871 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 3,475 | 4,806 | 3,898 | 4,139 |

| 事業内容(主なもの) | | 費用内訳(主なもの) | |
|------------|---------------|----------------|------|
| 元年度 | ・行政改革推進委員会の開催 | ・行政改革推進委員会開催経費 | 54千円 |

事業開始背景

市では、平成14年に改定された「行政改革大綱」において、「行政改革推進計画」を策定し、大綱で示す基本方針の具体的な取組の推進を図ることとした。
このことに併せて、「行政改革推進計画」進行管理と職員の意識向上を図るため、本事業を開始した。

事業を取り巻く環境変化

平成14年度 「行政改革大綱（H14～H16）」改定、「行政改革推進計画（H14～H16）」策定
 平成17年度 「行政改革大綱」改定、「行政改革推進計画（H17～H22）」策定
 平成26年度 「行政改革大綱」改定、「行政改革推進計画（H26～H30）」策定
 平成30年度 「行政改革推進計画（2019年度～2023年度）」策定

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

| | | | |
|------------|----------------|----------|--|
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 | 平成30年度に新たに策定した「江別市行政改革推進計画」に基づき、本計画に掲げる取組項目・指標を計画的に実施することで、一定程度の成果があったものとする。 |
| | どちらかといえば上がっている | | |
| | 上がっていない | | |

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

| | | | |
|--------|----------|----------|--|
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 「江別市行政改革大綱」に基づく、「江別市行政改革推進計画」の着実な実施を図るとともに、ローリングにより取組項目を追加することにより、成果を向上させる余地がある。 |
| | 成果向上余地 中 | | |
| | 成果向上余地 小 | | |

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

| | | | |
|-----|----|----------|-----------------------------------|
| コスト | ある | 理由 根拠 | 本事業は、必要最低限の経費に縮小しており、コスト削減は困難である。 |
| | なし | | |

事業名：行政評価・外部評価推進事業

【事業番号 554】
政策推進課参事(総合計画・総合戦略)

| | | | | | | | | |
|---------|------------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 09 計画推進 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 01 自主・自立の市政運営の推進 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成16年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

・市職員
・市民

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 市職員 | 人 | 1,162 | 1,139 | 1,140 | 1,140 |
| 対象指標 2 | 市民 | 人 | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 119,510 |

手段(事務事業の内容、手法)

・評価調書の作成など、事務事業を基礎とする行政評価を行う。
・行政評価にかかる指標把握等のため、市民アンケート調査を実施する。
・行政評価を行う職員の技能向上を目的として、庁内説明会や研修会を開催する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 行政評価説明会等開催回数 | 回 | 1 | 3 | 1 | 1 |
| 活動指標 2 | 外部評価委員会開催回数 | 回 | 6 | 0 | 0 | 0 |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

・行政評価の手法を用いて、PDCAサイクルによる総合計画の推進が図られる。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | まちづくり政策にかかる成果指標の目標達成割合 | % | 66.7 | 64.4 | 87.9 | 100 |
| 成果指標 2 | 計画的に成果が上がっている事務事業の割合 | % | 92.9 | 90.3 | 85.6 | 100 |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費(A) | | 千円 | 2,923 | 2,783 | 2,165 | 1,929 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 9,142 | 9,152 | 7,687 | 7,741 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 12,065 | 11,935 | 9,852 | 9,670 |

| 事業内容(主なもの) | | 費用内訳(主なもの) | |
|------------|-----------------|------------------|---------|
| 元年度 | まちづくり市民アンケートの実施 | まちづくり市民アンケート実施経費 | 2,165千円 |

| |
|--|
| 事業開始背景 |
| 平成16年度スタートの第5次総合計画の策定に伴い、PDSサイクルなどの新しい手法を取り入れ、上位貢献をはじめとした統一的な視点で行政の検証・見直しを行うシステムとして導入した。 |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| 平成26年度からの第6次総合計画「えべつ未来づくりビジョン」からは、行政評価をベースとしたマネジメントサイクルをPDSサイクルからPDCAサイクルへ見直しを行い、総合計画の継続的な向上をめざしながら進行管理を行っている。 |

| | | | | | | | |
|---|---|----------|----------|---|--|--|----------|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点） | | | | | | | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | | | | | |
| 成果動向及び原因分析 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3"> <p>「まちづくり政策にかかる成果指標の目標達成割合」は、平成30年度と比較すると向上している。</p> <p>「計画的に成果が上がっている事務事業の割合」は、平成30年度と比較すると実績値は低下しているものの、高い水準で推移している。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table> | 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | <p>「まちづくり政策にかかる成果指標の目標達成割合」は、平成30年度と比較すると向上している。</p> <p>「計画的に成果が上がっている事務事業の割合」は、平成30年度と比較すると実績値は低下しているものの、高い水準で推移している。</p> | どちらかといえば上がっている | 上がっていない |
| 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | | | | <p>「まちづくり政策にかかる成果指標の目標達成割合」は、平成30年度と比較すると向上している。</p> <p>「計画的に成果が上がっている事務事業の割合」は、平成30年度と比較すると実績値は低下しているものの、高い水準で推移している。</p> | |
| どちらかといえば上がっている | | | | | | | |
| 上がっていない | | | | | | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | | | | | |
| 成果向上余地 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3"> <p>行政評価の手法により、各施策や事務事業の積極的なスクラップアンドビルドを行うことで更なる成果の向上が期待されるほか、外部の視点を取り入れることによる成果の向上も期待される。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table> | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | <p>行政評価の手法により、各施策や事務事業の積極的なスクラップアンドビルドを行うことで更なる成果の向上が期待されるほか、外部の視点を取り入れることによる成果の向上も期待される。</p> | 成果向上余地 中 | 成果向上余地 小 |
| 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | | | | <p>行政評価の手法により、各施策や事務事業の積極的なスクラップアンドビルドを行うことで更なる成果の向上が期待されるほか、外部の視点を取り入れることによる成果の向上も期待される。</p> | |
| 成果向上余地 中 | | | | | | | |
| 成果向上余地 小 | | | | | | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | | | | | | |
| コスト | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2"> <p>本事業は行政評価及び外部評価を実施する上で必要最低限の内容にて実施しているため、コストの削減は困難である。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">なし</td> </tr> </table> | ある | 理由 根拠 | ▶ | <p>本事業は行政評価及び外部評価を実施する上で必要最低限の内容にて実施しているため、コストの削減は困難である。</p> | なし | |
| ある | 理由 根拠 | ▶ | | | | <p>本事業は行政評価及び外部評価を実施する上で必要最低限の内容にて実施しているため、コストの削減は困難である。</p> | |
| なし | | | | | | | |

事業名： 広聴活動事業

【事業番号 561】
 広報広聴課 広報広聴係

| | | | | | | | | |
|---------|----------------------|-------|---|-----|----|-----|----|-----|
| 政策 | 09 計画推進 | 戦略 | | | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 透明性と情報発信力の高い市政の推進 | 具体的施策 | | | | | | |
| 開始年度 | — | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・市民

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 市民 | 人 | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 119,510 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

・現状の広聴手段である①面談、②広聴箱、③郵便、④電話、⑤FAX、⑥Eメールのほか、各担当課で実施する⑦施設見学会、⑧市民アンケート、⑨各種懇談会、⑩パブリックコメントの利用増、機会の拡充を図る。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 市民が市へ意見や要望を伝える手段の数 | 個 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・市政に対する市民の意見、要望、提言等を伝える媒体を整備することで、市民が市政に関する意見を伝えやすくなる。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 1年に寄せられた意見や要望の件数（陳情・要望・市民の声） | 件 | 279 | 275 | 298 | 281 |
| 成果指標 2 | 1年に寄せられた意見や要望の件数（パブリックコメント） | 件 | 99 | 166 | 74 | 135 |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 5,333 | 5,339 | 5,381 | 5,419 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 5,333 | 5,339 | 5,381 | 5,419 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|-----------------------------|------------|--|
| 元年度 | 市民からの意見・要望を所管課に伝え、市政に反映させる。 | 人件費事業 | |

事業開始背景

- ・市民の市政に対する意見、要望、提言を行政に反映させるために事業を開始。
- ・平成16年度に政策審議室広報広聴担当から現在の企画政策部広報広聴課に体制を格上げして事業に当たっている。
- ・平成30年4月に広聴担当部門を新設し、意見や要望の受理体制を強化したほか、市民相談業務の充実を図った。

事業を取り巻く環境変化

- ・意見や要望などを伝える媒体として、スマートフォン等の普及に伴いインターネットの利用増加が続いている。
- ・庁内各部署にメールアドレスが配置され、意見や要望に対する回答の迅速化が図られた。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

| | | |
|---|----------------|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |

事業名： 広報えべつ発行等事業

【事業番号 562】
 広報広聴課 広報広聴係

| | | | | | | | | |
|---------|----------------------|-------|---|-----|----|-----|----|-----|
| 政策 | 09 計画推進 | 戦略 | | | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 透明性と情報発信力の高い市政の推進 | 具体的施策 | | | | | | |
| 開始年度 | — | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・市民
 ・世帯

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 市民 | 人 | 118,979 | 118,971 | 119,510 | 119,510 |
| 対象指標 2 | 世帯数 | 世帯 | 56,456 | 57,155 | 57,929 | 57,929 |

手段（事務事業の内容、手法）

・ A 4判 1色刷（表・裏表紙はカラー印刷）、月平均28ページ、毎月1日付、年12回発行。
 ・ 編集の一部及び印刷、製本については業務委託し、発行に係る企画、取材、編集、版下作成を直接職員が行う。
 ・ 配布については、自治会に郵送し各戸配布を依頼している他、ホームページへの掲載、自治会未加入者等のために市内の大学、公共施設、JR駅、郵便局、大学・企業の寮、コンビニ、スーパー、病・医院、理容院等にも設置。
 ・ 転入者に江別での生活情報をまとめた「江別生活ガイドブック」を配布する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|---------|----|--------|--------|--------|--------|
| 活動指標 1 | 月平均作成部数 | 部 | 47,180 | 47,138 | 47,096 | 47,050 |
| 活動指標 2 | 広報配布箇所数 | 箇所 | 271 | 268 | 266 | 266 |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・ 市政の基本方針を始め、業務・事業紹介、制度改革、市民活動団体の紹介等、市民生活に係る事項について市民に周知される。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 配布率 | % | 81.8 | 80.1 | 79.9 | 81.6 |
| 成果指標 2 | 広報えべつを読んでいる市民の割合 | % | 83.8 | 84.5 | 81.7 | 84.5 |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 13,785 | 13,869 | 14,205 | 14,673 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 11,427 | 11,441 | 11,531 | 11,612 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 25,212 | 25,310 | 25,736 | 26,285 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|--|------------|----------|
| 元年度 | 広報えべつの発行、転入者への生活情報をまとめた冊子「江別生活ガイドブック」の発行 | 広報えべつ作成経費 | 13,934千円 |
| | | 江別生活ガイドブック | 271千円 |

事業開始背景

市の施策や業務、事務内容及び市民生活に関する情報の周知・理解を図るため、昭和25年に「町政だより」として発刊。昭和29年7月の市政施行を機に「市政だより」、昭和41年5月に「広報えべつ」と名称を改めて市政情報を発信している。

事業を取り巻く環境変化

配布については自治会による戸別配布を基本としているが、高齢化や自治会未加入者の増加等により全戸配布が困難となっており、今後も配布方法について継続的な検討を要する。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

| | | | |
|------------|-----------------------|----------|--|
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 | 見やすい誌面構成や積極的な特集記事のほか、業務の最適化の観点から一部定例記事の業務委託、スーパー・コンビニ・病院等への設置により、多くの市民が閲覧できるよう努めている。 |
| | どちらかといえば上がっている | | |
| | 上がっていない | | |

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

| | | | |
|--------|-----------------|----------|--|
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | 内容が豊富な反面ページ数も多く、今後も掲載情報の整理及び文章の簡略化等による見やすく分かりやすい効率的な誌面構成を行う。 |
| | 成果向上余地 中 | | |
| | 成果向上余地 小 | | |

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

| | | | |
|-----|-----------|----------|--|
| コスト | ある | 理由 根拠 | <ul style="list-style-type: none"> ・有料広告件数の増加による広告料収入の増 ・市職員全員が広報マンであるという意識の醸成を引き続き図るとともに、広報の費用対効果についての共通認識を高める（掲載内容の選択と集中）。 |
| | なし | | |

事業名： ウェルカム江別事業

【事業番号 966】
 広報広聴課 広報広聴係

| | | | |
|---------|----------------------|-------|------------|
| 政策 | 09 計画推進 | 戦略 | |
| 取組の基本方針 | 02 透明性と情報発信力の高い市政の推進 | 具体的施策 | |
| 開始年度 | 平成23年度 | 終了年度 | — |
| | 区分1 | 継続 | 区分2 単独 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・ 江別市外在住でこれから移住・定住を考える世帯

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------------------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 江別市内外の移住・定住を考える世帯（把握困難） | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 対象指標 2 | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

- ・ 江別市の魅力をPRするリーフレット及びホームページ・SNSを作成・運営し、情報発信する。

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 パンフレット等作成部数 | 部 | 33,500 | 20,000 | 5,000 | 4,000 |
| 活動指標 2 ホームページ更新回数（年間） | 回 | 11 | 11 | 22 | 12 |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・ 情報発信を充実させることで、道内外における江別の認知度を向上させ、江別市外在住で江別をよく知らなかった人にも、移住候補先としての江別市を認知してもらう。
- ・ 情報発信により江別の観光情報や生活情報に触れる機会が増え、関心度の向上により江別を身近に感じることでイメージアップにつながり、定住先としての江別という認識を向上させる。

| 指標名 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------------------------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 成果指標 1 パンフレット等配布部数（年間） | 部 | 33,500 | 20,000 | 5,000 | 4,000 |
| 成果指標 2 ホームページのアクセス件数（年間ページビュー） | 件 | 8,578 | 10,458 | 15,208 | 11,100 |

| 事業費の推移 | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | 千円 | 7,747 | 1,739 | 432 | 286 |
| 正職員人件費 (B) | 千円 | 3,047 | 3,051 | 3,075 | 1,548 |
| 総事業費 (A+B) | 千円 | 10,794 | 4,790 | 3,507 | 1,834 |

| | 事業内容（主なもの） | 費用内訳（主なもの） |
|-----|-----------------------------|---------------------------|
| 元年度 | 江別の住み良さをPRするチラシ「えべつの暮らし」の作成 | 江別の住み良さをPRするチラシ作成経費 275千円 |

| |
|--|
| 事業開始背景 |
| 日本が本格的な人口減少の時代を迎え、江別市においても平成17年をピークに人口が減少し、少子高齢化も確実に進行している。 今後、定住人口や交流人口を増加させるため、江別市外の方に江別の良さを印刷物等でアピールし、江別市の人口増加に寄与することを目的し、事業を開始した。 |
| 事業を取り巻く環境変化 |
| パンフレット等や市ホームページのほか、フェイスブック等のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）など、道内外に向けて多様な媒体での情報発信が可能となってきた。 |

| | |
|--|--|
| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点） | |
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている |
| | どちらかといえば上がっている |
| | 上がっていない |
| 理由根拠 | 当事業の成果指標だけで成果をとることは難しいが、近年、ホームページのアクセス件数は伸びており、今後に期待できる。 |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 |
| | 成果向上余地 中 |
| | 成果向上余地 小 |
| 理由根拠 | SNSをはじめとした多様な情報発信媒体の普及により、多くの人に情報を受け取ってもらえる可能性がある中、共感されやすい話題を戦略的に発信していくことで、さらに江別市の魅力が認知される余地がある。 |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | |
| コスト | ある |
| | なし |
| 理由根拠 | パンフレット類の統合や配布方法、配布先の見直し・効率化による発行部数の軽減 |

事業名：ホームページ運営事業

【事業番号 1022】

広報広聴課 広報広聴係

| | | | | | | | | |
|---------|----------------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 09 計画推進 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 透明性と情報発信力の高い市政の推進 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成13年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民および江別市の情報を必要としているインターネット利用者

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-------------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 対象指標 1 | インターネット利用者数（測定不能） | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

- ・市公式ホームページにより市政情報やイベント情報などを提供する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 情報更新回数（年間） | 件 | 4,348 | 4,310 | 4,746 | 4,400 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・市政情報などを迅速かつ分かりやすく提供することで、市と市民が行政情報を共有する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-----------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 成果指標 1 | ホームページアクセス数（年間） | 回 | 4,103,954 | 4,416,509 | 4,883,144 | 4,377,000 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|-------|-------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 578 | 312 | 282 | 2,254 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 7,618 | 7,627 | 7,687 | 7,741 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 8,196 | 7,939 | 7,969 | 9,995 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|---------------|--|--|
| 元年度 | 市ホームページの管理・運営 | コンテンツ管理システムの保守運営経費 172千円 コンテンツ管理システムの回線使用料、モバイルWi-fi管理費 110千円 | |

事業開始背景

インターネットの普及により、行政情報をいち早く発信するため、平成13年度から市のホームページを開設し、インターネットによる市政情報等の発信を開始した。

事業を取り巻く環境変化

平成25年度にCMS（コンテンツ管理システム）を導入し、分類方法を見直す等して閲覧者が見やすく、使いやすいシステムを構築し、また、所管部署が直接、情報の更新等を行えることとなり、より迅速な情報発信が出来るようになった。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

| | | | | | | | |
|---|--|----------|----------|---|--|--|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | | | | | | |
| 成果動向及び原因分析 | <table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">平成25年度（平成26年1月）のCMS（コンテンツマネジメントシステム）導入後、サイトの構成やデザイン、情報分類方法等を見直し、大型パネルによるイベント周知、市政情報の発信数を増やしている。災害等の緊急時におけるホームページへの需要は高く、スマートフォンなどの普及に伴い、SNSによる情報の拡散に努めている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table> | 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | 平成25年度（平成26年1月）のCMS（コンテンツマネジメントシステム）導入後、サイトの構成やデザイン、情報分類方法等を見直し、大型パネルによるイベント周知、市政情報の発信数を増やしている。災害等の緊急時におけるホームページへの需要は高く、スマートフォンなどの普及に伴い、SNSによる情報の拡散に努めている。 | どちらかといえば上がっている | 上がっていない |
| 上がっている | 理由 根拠 | ▶ | | | | 平成25年度（平成26年1月）のCMS（コンテンツマネジメントシステム）導入後、サイトの構成やデザイン、情報分類方法等を見直し、大型パネルによるイベント周知、市政情報の発信数を増やしている。災害等の緊急時におけるホームページへの需要は高く、スマートフォンなどの普及に伴い、SNSによる情報の拡散に努めている。 | |
| どちらかといえば上がっている | | | | | | | |
| 上がっていない | | | | | | | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | | | | | | |
| 成果向上余地 | <table border="1"> <tr> <td style="width: 30%; background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">SNSと連携した多角的な情報発信を進めており、多様化する利用者ニーズに対応できるよう努めている。 また、時代の変化に合わせて必要な機能を持つCMS（コンテンツマネジメントシステム）への転換により、より有効な情報発信が可能となる。</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table> | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | SNSと連携した多角的な情報発信を進めており、多様化する利用者ニーズに対応できるよう努めている。 また、時代の変化に合わせて必要な機能を持つCMS（コンテンツマネジメントシステム）への転換により、より有効な情報発信が可能となる。 | 成果向上余地 中 | 成果向上余地 小 |
| 成果向上余地 大 | 理由 根拠 | ▶ | | | | SNSと連携した多角的な情報発信を進めており、多様化する利用者ニーズに対応できるよう努めている。 また、時代の変化に合わせて必要な機能を持つCMS（コンテンツマネジメントシステム）への転換により、より有効な情報発信が可能となる。 | |
| 成果向上余地 中 | | | | | | | |
| 成果向上余地 小 | | | | | | | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | | | | | | |
| コスト | <table border="1"> <tr> <td style="width: 30%; background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2">有料広告件数の増加による広告収入の増。 CMS（コンテンツマネジメントシステム）の導入により、所管課での更新が可能となったことから、更新作業が効率的になるよう、運営方法の更なる充実を図っていく。</td> </tr> <tr> <td>なし</td> </tr> </table> | ある | 理由 根拠 | ▶ | 有料広告件数の増加による広告収入の増。 CMS（コンテンツマネジメントシステム）の導入により、所管課での更新が可能となったことから、更新作業が効率的になるよう、運営方法の更なる充実を図っていく。 | なし | |
| ある | 理由 根拠 | ▶ | | | | 有料広告件数の増加による広告収入の増。 CMS（コンテンツマネジメントシステム）の導入により、所管課での更新が可能となったことから、更新作業が効率的になるよう、運営方法の更なる充実を図っていく。 | |
| なし | | | | | | | |

事業名：えべつシティプロモーション事業

政策推進課参事(シティプロモート・住環境活性化)

| | | | | | | | | |
|---------|----------------------|------|---|-------|----|-----|----|-----|
| 政策 | 09 計画推進 | | | 戦略 | | | | |
| 取組の基本方針 | 02 透明性と情報発信力の高い市政の推進 | | | 具体的施策 | | | | |
| 開始年度 | 平成26年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 継続 | 区分2 | 単独 | 補助金 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市外居住者

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|-------|----|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 市外居住者 | 千人 | 126,587 | 126,321 | 126,047 | 126,020 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段(事務事業の内容、手法)

- ・市内大学・企業・経済団体などとともに市のプロモーション(売り込みや知名度向上)のための推進組織(江別シティプロモート推進協議会)を設置し、官民一体的なプロモーションを検討の上、江別の魅力を発信するイベント等の推進プロジェクトを実践する。
- ・市民等がブログで江別の情報を発信する仕組みづくり(江別市民ブロガーズ)など、まちのイメージを高めるための戦略的な取組を構築する。
- ・印刷物やホームページをはじめInstagramやフェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の活用など、状況に合わせた効果的な情報発信を検討の上、実施する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 推進プロジェクト等の活動回数 | 回 | 10 | 12 | 10 | 8 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

江別シティプロモート推進協議会における官民一体的なプロモーション、まちのイメージを高めるための戦略的な取組、多様な情報発信の実践を通して、積極的に江別市の魅力をPRし、江別市に対する認知度、イメージを向上させる。認知度やイメージの向上は、企業誘致、観光や転入促進など市外の対象に働きかける様々な活動を効果的・効率的に推進するために必要な要素である。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 江別市の認知度の道内順位 | 位 | 20 | 21 | 19 | 18 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|-----------|--|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費(A) | | 千円 | 4,916 | 3,830 | 5,154 | 4,055 |
| 正職員人件費(B) | | 千円 | 15,236 | 15,254 | 15,374 | 15,482 |
| 総事業費(A+B) | | 千円 | 20,152 | 19,084 | 20,528 | 19,537 |

| 事業内容(主なもの) | | 費用内訳(主なもの) | |
|------------|---------------------------------|----------------|---------|
| 元年度 | 官民一体となった地域PR 地域おこし協力隊による地域PR | 子育て世代向けセミナー等委託 | 2,197千円 |
| | | 地域おこし協力隊報酬 | 2,280千円 |

事業開始背景

日本が本格的な人口減少の時代を迎え、江別市においても平成17年をピークに人口が減少し、少子高齢化も確実に進行している。
 今後、定住人口や交流人口を増加させるためには、まずは江別の良さが道内外に広く認知される必要があることから、市内の関係団体からなる協議会（江別シティプロモート推進協議会）を設立し、江別の認知度の向上を図れるような体制を構築していく。

事業を取り巻く環境変化

江別市においては、令和元年に15年ぶりに対前年同月比で人口が増加したが、少子高齢化、都市部への一極集中は全国的な傾向であり、PR合戦として多くの自治体が似たような取組みを行う中で、新聞・テレビ・雑誌・ポスター等のマス広告的手法は莫大な費用がかかるうえにニーズや価値観の多様化に伴って一定の限界があり、これを補う手法としてクチコミ情報の活用が注目されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

| | | |
|---|----------------|----------|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | 上がっている | 理由 根拠 |
| | どちらかといえば上がっている | |
| | 上がっていない | |
| (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | | |
| 成果向上余地 | 成果向上余地 大 | 理由 根拠 |
| | 成果向上余地 中 | |
| | 成果向上余地 小 | |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | ある | 理由 根拠 |
| | なし | |

事業名：生涯活躍のまち整備事業

政策推進課 主査（政策推進）

| | | | | | | | |
|---------|------------|------|---|-------|------------------------------|-----|-------------|
| 政策 | 99 政策の総合推進 | | | 戦略 | 3 子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり | | |
| 取組の基本方針 | 01 政策の総合推進 | | | 具体的施策 | (1) 健康増進活動の推進 | | |
| 開始年度 | 令和元年度 | 終了年度 | — | 区分1 | 新規 | 区分2 | 単独 補助金 事業補助 |

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|----|----|--------|--------|---------|---------|
| 対象指標 1 | 市民 | 人 | 0 | 0 | 119,510 | 119,510 |
| 対象指標 2 | | | | | | |

手段（事務事業の内容、手法）

生涯活躍のまち形成事業計画を策定するために必要な地域再生協議会を開催する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|--------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 活動指標 1 | 地域再生協議会の開催回数 | 回 | 0 | 0 | 5 | 2 |
| 活動指標 2 | | | | | | |

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

生涯活躍のまちの実現にかかる生涯活躍のまち形成事業計画を策定する。

| 指標名 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|--------|---------------|----|--------|--------|-------|-------|
| 成果指標 1 | 生涯活躍のまち形成事業計画 | 計画 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 成果指標 2 | | | | | | |

| 事業費の推移 | | 単位 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度実績 | 2年度当初 |
|------------|--|----|--------|--------|--------|--------|
| 事業費 (A) | | 千円 | 0 | 0 | 3,177 | 13,012 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 0 | 0 | 11,531 | 11,612 |
| 総事業費 (A+B) | | 千円 | 0 | 0 | 14,708 | 24,624 |

| 事業内容（主なもの） | | 費用内訳（主なもの） | |
|------------|--|---|--|
| 元年度 | <ul style="list-style-type: none"> 地域再生協議会の運営 生涯活躍のまち形成事業計画の策定 | <ul style="list-style-type: none"> 地域再生協議会の委員報酬等 614千円 生涯活躍のまち形成事業計画の委託費用（アンケート等） 2,563千円 | |

| 事業開始背景 | |
|--|--|
| <p>生涯活躍のまち（日本版CCRC）は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に明記され、地方創生の取組として推進されている。 江別市では、国の構想に基づき、平成29年3月に江別版「生涯活躍のまち」構想を策定した。本事業は、江別市の特色を活かし、市民が市外に転出することなく、生涯にわたって安心して暮らし続け、中高年齢者や若年層、障がい者など多様な主体が交流できる「共生のまち」の実現を目指すため、事業を開始した。</p> | |
| 事業を取り巻く環境変化 | |
| <p>令和元年度は、江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会の審議を経て、事業の具体的取組を記載した、江別市生涯活躍のまち形成事業計画を策定した。</p> | |

| 令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点） | | |
|---|---|---|
| (1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？ | | |
| 成果動向及び原因分析 | <input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がっていない | 理由 根拠 <p>江別版「生涯活躍のまち」構想に基づき、中高年齢者、若年層、障がい者等の多様な主体が支え合う、共生のまちの実現につながる、江別市生涯活躍のまち形成事業計画を策定した。</p> |
| | (2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？ | |
| | 成果向上余地 大 成果向上余地 中 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 小 | 理由 根拠 <p>令和元年度においては、計画策定を目的としている。</p> |
| (3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？ | | |
| コスト | <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし | 理由 根拠 <p>江別市生涯活躍のまち形成事業計画策定にあたっては、地域再生協議会運営支援のほか、計画策定に必要な基礎データの取りまとめやアンケート調査等を限られた期間で行う必要があり、業務遂行能力のある事業への業務委託が必要である。</p> |